

8. 同和問題に対する考え－自由回答－

問20 あなたは同和問題に対してどのような気持ちや考えをお持ちですか。
(自由に書いて下さい。)

調査票の最後に、同和問題に対しての気持ちや考えを自由に記入する設問を設けた。

この設問に対する回答者は1,232人であり、設問20に対する回答率は44.3% (1,232/2,778) である。

その主なものを次に掲げた。

(肯定的な意見)

- ・私は幸い小・中学校と同和教育の時間が週に一度ありました。何が私にとって一番良かったらうと思うと、やはり先生です。話して下さる先生がどれだけ気持を持って話して下さるかと思いました。同和教育は必要です。子供にもそれは伝えていくべき事であるし、親の責任であると思っています。～中略～子供の保育園での同和問題に対するアンケート調査で、私が今まであたり前だと思っていた考え、「皆が同和教育はするべきだ」と考えていると思っていました。しかし実態は、「しなくてもよい」「なぜするかわからない」など愕然とする答えが大半でした。まだまだ、あたり前の事があたり前になっていないのだと思います。
- ・日頃自分では気付いていないが、差別していることがあると思う。それは自分が勉強不足の為に、これからもそういうことを少しでも減らすために勉強していかなければならないと思う。私からみると、今の同和教育はマイナスイメージが強いように思う。「なぜ差別されたのか」ではなく、「なぜ差別をしたのか」という、自分自身に問いかけるように考えることが必要なのではないのでしょうか。
- ・同和問題をはじめ、様々な差別が依然として存在しています。同和問題をはじめとするあらゆる人権問題の解消のため、行政や地域の人々が大変な努力をしておられます。しかしながら、多くの市民は無関心を装い、差別に直面した際、同調と傍観に徹しています。地道な啓発活動を続けていくことが必要ですが、私も一市民として様々な研修会や学習会に参加し、色々勉強したいと思っています。そして学ぶことにより、偏見に左右されることなく自分の考えをしっかりと持ち、行動できるようになりたいです。
- ・同和問題は、本来平等に保障されるべき権利が奪われ、結果人々の生活基盤に多大な損失を与えたものであり、それは人々の精神面にも大きな影響を与えている。本来保障されるべき権利を回復するために様々な行政施策がとられてきたが、施策の一般化に値する成果が十分に得られたかという疑問である。さらに、人々の心理的な部分に息づく差別をどう解消していくかは、私たちみんなの課題であり、私の課題だと思う。
- ・まず、自分自身の在り方、生き方を振り返ることから始めたい。そして正しいと思ったことを行動化につなげる努力をしたい。
- ・私は今小学校の同和推進委員長をしています。日々本当に勉強です。人との出会いがこんなに素晴らしいとは、同推にかかわっていないければ、こんな風に感じることはなかったと思います。なぜそのように感じるができるのかというと、同和教育を実践された方は、人の気持が分る、相手の立場に立てる、そして同じ想い「差別をしない」があるからだと思います。～中略～そういう自分になるには、ふだんから自分の気持を素直に表現すること、相手の気持も素直に聞くこと、お互いの想いを伝え合うこと、コミュニケーションの大切さだと思います。考えがまとまりませんが、なにより行動すること、具体的力だと思います。
- ・県外から来た人で、「私は被差別部落、同和問題などという言葉さえ聞いたことがなく、まった

く知らない。だから差別なんてしたことがない」とPTA（小学校）の会合などで言われる方がいます。人権問題として大変なことなのに地域によってこんなに格差があるのかと驚きました。無知であること、無関心であること、これがいつまでも差別がなくなる理由の1つだと誰かが言われました。まったくそのとおりだと思います。まず差別は自分の問題だととらえることが大事だと思います。子どもたちにも同和教育というのは必要なことだと考えます。

- ・差別がみえにくくなってきたので、「同和教育はもうしなくてもよい」とか「同和教育をするから差別がなくなる」という考えを持つ人が増加してきているように感じます。もしそれが事実であったとすると、人権尊重の世の中が崩れている前兆のように思います。同和教育のみならず他の人権問題も含めて、しっかりとした取り組みが必要となってきたと思います。

（否定的な意見）

- ・転勤であちこち回っていますが、今の日本は誰でもどこにでも住めるし、どこへでも行けます。これからもそうだと思います。そうしているうちになくなっていくのではないのでしょうか。
- ・同和地区を対象として特別に対策すること自体差別だと思う。対策、教育をなくすべき。同和地区の人々が差別されないよう行動をとることが大切。
- ・同和、同和という方が、差別だと思います。自然にしていけばいいと思う。
- ・同和教育の学習をすること自体差別につながるのではないのでしょうか。
- ・同和教育がある事は知っていますが、関心が無いです。結婚問題などで直接問題が起きると考えるかもしれませんが、普段は全く関心がありません。
- ・本当はなくしていくべきだと思うが、なかなかむずかしいと思う。実際、友達にもたくさんいるので特別意識はしていない。でも、子供が結婚したいといわれたらためらうと思う。
- ・現在の同和教育では解決しないと思います。同和地区の人々が今住んでいるところをはなれて、ばらばらになって生きることが一番の早道だと思われまます。

(後 記) (文責 国歳眞臣)

最後に全体を通して感じたことを記してまとめとしたい。それは、私には関係ない、関心がない、関わりたくないという意識が、今回の調査では特に強くみられたという点である。ノーマ・フィールド (1947年東京生まれ) が、最近の日本人について書いた新聞記事の中に次のような文章があった。

「今、他人や社会の出来事との関係を拒否することが、新種のアイデンティティーになっているのではないか。私は、これを「関係ないよ」という姿勢を根底に置くアイデンティティーと呼ぶ。」

そして、彼女は、その結果として「当事者でない (ないと思っているだけなのだが) 市民が広範に立ち上がる状況」が、ほとんどなくなってしまった現代日本と指摘している。

自由回答の中で、「否定的な意見」の中心に「寝た子を起こすな論 (自然解消論)」が多数みられた。

学校同和教育や社会啓発の中で、この考え方が部落差別を存続させてきた点を明らかにしてきたにもかかわらず、特別措置法失効後、同和問題解決の方策として「公務員・教員」自体にこの考え方が極めて強い (図56P.83) 背景には、このノーマ・フィールドの指摘する《「関係ないよ」という姿勢を根底に置くアイデンティティー》が存在していることは明白である。

未だ現存する日常的差別関係の中で、その被差別状況を告発する動き自体は、こうした「無関心派である」差別の加害者の多くから、「私は黙って生きていたいのに、寝た子を起こすのか」というおかど違いの迷惑意識を向けられているといえる。しかし、人間は、常に多数派として加害者の立場にとどまっていることなどできないことを、もう少し市民は知るべきではなからうか。